

# 子育て支援の具体的推進を

梶田稔議員は、3月9日に一般質問を行い、子育て支援の具体的推進、歴史民俗資料館の改善、増税分の町民への還元などについて質問し、町当局の見解をたどりました。

## 中学卒業まで医療費無料化を

**梶田稔議員** 私は、中学卒業までの医療費無料化を、数回にわたって議会で取り上げてきました。

このほど、厚労省は就学前までの医療費無料化を明らかにし、先の県知事選挙で神田知事は、平成20年度から就学前までの入・通院費と中学卒業までの入院費の無料化をマニフェストに掲げ、条件は一歩前進した。

無料化されたい。

## 県の実施状況も含めて検討

**答弁** 医療費無料化については、新年度予算に1億1387万円計上しており、この内、県補助金は3274万5千円。従って、町の一般財源としては8112万5千円となっている。

また、県下でも大府市・飛島村・弥富市・高浜市などが中学卒業までの医療費を無料化するなど増えてきている。

こうした新しい条件も活かして、本町でも中学卒業まで医療費を

一般質問を行う梶田稔議員（3月8日）質問及び答弁の全文、意見書等議会議の模様は、下記のホームページをご覧ください。  
<http://www.kajita-m.jp>

## 妊婦健診を14回に

県が通院を就学前まで、入院を中学卒業まで無料とした場合は、1億2529万7千円が必要となり、県補助金を差し引いた町の一般財源は6265万円必要となる。このように、一般財源としての町負担は、現行より1800万円ほど軽くなるので、県の実施状況を勘案しながら検討したい。

## 梶田稔議員 新年度予算

で、従来の妊婦健診2回を5回に増やして提案されている。

厚労省は、1月16日付の通知で「14回程度行われることが望ましい」と通知している。今回、2回を5回に増やしたことを多とすることにやさかではないが、既に大府市が14回に踏み切ったと報道されているように、厚労省が「望ましい」としている14回へとさらに健診回数を増やしてもらいたい。

## 検討したい

**答弁** 実施財源は普通交付税で措置されることになっている。

武豊町は普通交付税の交付対象となっていないので、町の独自財源で実施することになる。

この財源問題も含めて、今後、検討したい。

## 障がい者に優しい公共施設に

**梶田稔議員** 歴史民俗資料館には、障がい者トイレもなければ、2階へのエレベーターもない。出入り口の扉も

自動化されていない。障がい者に優しい公共施設として、多くの方々に利用されるように、これらの改善・改修を早急に実施されたい。

## 耐震改修などと併せて検討

**答弁** 歴史民俗資料館は、雨漏りなど建物自体を改修する必要も出ており、耐震改修も重要な課題となっている。

近隣公共施設との関連も含めて、今後、検討したい。



※梶田稔議員は、このほかに「増税による町民の暮らし・福祉の切り捨てをやめ、具体的な助成・救済措置を求める」質問を行いました。梶田進議員・小西幸男議員と重複する部分がありますので省略します。